

■ マーラー／交響曲第 4 番 ト長調

銀色の鈴の響きで始まるマーラーの交響曲第 4 番は、曲全体がほのぼのとした雰囲気に入れられ、愛らしさや生き生きとした喜びにあふれている。この世のものとは思えないほどの美しい情景。だが、その傍らには影のように、作曲家の感じた現世の苦悩や死のイメージがつきまとっていることも忘れてはなるまい。伝統的な 4 楽章だが、あえて異なったスタイルの音楽を並べ、古典的形態からのズレを仕掛ける構成。聖と俗、明と暗の対比を基盤としている。

第 1 楽章はソナタ形式で書かれているものの、突然、新しいモチーフが挿入されて、混沌とした印象をあたえる。軽快な第 1 主題と民謡風の第 2 主題に続き、展開部では 4 本のフルートがユニゾンで新しいメロディを奏でるが、これは第 4 楽章の主要主題を予告する「天上の世界」の象徴である。第 2 楽章は不気味な色彩をたたえたスケルツォ。草稿に「友人ハイン（死神のあだ名）が演奏する」と記された独奏ヴァイオリンのパートは、通常より全音高い特殊な調弦で、まるで神経がいらだつような音色によって舞曲が演奏される。ハーブの鋭い響きや調子っぱずれのホルンなど、アイロニカルなモチーフが次々に現れる。トリオはつかの間の安らぎ。第 3 楽章は自由な変奏曲形式。4 回転調し、拍子もテンポも変化して、不安定な様相をみせる。すると、金管が待ちかねたように歓喜のファンファーレをとどろかせ、まもなく楽想が静まり、そのまま第 4 楽章へ。

第 4 楽章ではソプラノが、以前「子どもの魔法の角笛」の民謡詩に作曲した自作の歌曲「天上の生活」を歌う。各フレーズは第 1 楽章冒頭の鈴の音のモチーフで結びつけられている。前半の歌詞は俗世間の騒ぎを忘れて天上の安らかな暮らしを楽しむことを陽気に表現したのち、「聖ペーターは天上でみつめる」という言葉で締めくくられ、続く後半はヨハネとヘロデスをめぐって、子羊をいけにえとして捧げることが語られている。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成：

フルート 4（ピッコロ持ち替え 2）、オーボエ 3（イングリッシュホルン持ち替え 1）、クラリネット 3（E♭クラリネット持ち替え 1、バスクラリネット持ち替え 1）、ファゴット 3（コントラファゴット持ち替え 1）、ホルン 4、トランペット 3、ティンパニ、

バスドラム、トライアングル、鈴、シンバル、グロッケンシュピール、銅鑼、ハーブ、弦五部、独唱ソプラノ

※スコア上の表記